

叱り方・言うことを聞かない

☆1歳半～2歳前後の子ども☆

何でも「イヤだ!」「自分で!!」など、親にとっては困った行動が目立ち始めます。こういった行動は親を困らせようとわざとしていることではありません。自己主張は子どもの発達にとって、とても大切なことなのです。

自己主張は親から十分に愛情をもらい、自分の存在に自信をもち、自分を意識するようになった証拠。しかし、親が言葉で言い聞かせようとしても子どもはまだ理解できず、子ども自身も上手に自分の気持ちを伝えることができない状況です。それを親が理解して接することがポイントになってきます。



☆してほしくない行動をとれないようにする工夫をする

◎例えば…危険なものは子どもの目に触れないようにしてしまうなど

☆子どもと目線を合わせ、短い言葉で話す

☆友だちとのトラブルでは、大人が間に入って子どもの気持ちが伝わる言葉かけをする

◎例えば…「貸してあげてね」「順番だよ」など

☆3歳前後の子ども☆

言葉の理解力が増えるため、「だめ」「後で」だけでなく、「それじゃ、こうしよう」「〇〇(例：絵本を読み終わる)まで待っていて」など、具体的に子どもにわかりやすい言葉で伝えていくことが必要です。



言うことを聞かないと、親としてはイライラすることも多いと思います。しかし、成長に合わせた対応を行っていくと、お互いに落ち着いてやりとりができるようになることが多くなります。困ったときは親自身も自分の気持ちを話したり、相談したりすることも大事なことです。

ご相談のある方はお電話ください。
港北区福祉保健センター こども家庭支援課
こども家庭相談 540-2388



©横浜市港北区ミズキー